

OCTAVE

Jubilee Mono SE

The Tube Monoblocs Power Amplifier

ドイツのハイエンドアンプメーカーである OCTAVE は、妥協の無い製品づくりを貫きながら、本質的かつ革新的な新しい製品の設計・開発を進めています。OCTAVE の理念をひとつにまとめたベーシックモデルのプリメインアンプ〈V40SE〉はその確かな証拠です。

OCTAVE は製品シリーズごとの価格帯に応じて最良の音質を実現してきました。製品価格は当然、開発と製造の影響を受け、自然と、この思いを引き起こします。「もし価格に縛られずにいたら...?」

この衝動を実現するべく、これまで限界とされていたことを打ち破るために1995年、OCTAVE は全く新しいアンプ設計を検討し始めました。こうして、最も困難なプロジェクト、リファレンスプリアンプ〈Jubilee Preamp〉の開発に着手したのです。

Jubilee Preamp が完成するまで最初の発想から3年を要しました。それは現在もユーザーからの高い評価をいただいている Jubilee シリーズの出発点となり、技術的な進歩とともに最適化され、今日もなお継続するプロジェクトとなっています。

この成功は OCTAVE にとってリファレンスシリーズ一連の製品化に拍車を掛けましたが、その一方で、パワーアンプ及びプリメインのパワー部はそれとは別の課題として存在していました。

OCTAVE の理念は非常にシンプルなものですが、OCTAVE のアンプは複雑なものではなく、信頼性があり、かつ世界中のあらゆるスピーカーとでも高レベルなハーモニーを奏でます。これは本質的に高品質なソリッドステート機器の安定性や性能と同等であることを意味しており、さらに幾つかの領域では確実により優れた音質を提供するべく努めました。特にそれが自然なダイナミクスを再現するためには尚更です。

創立者でありチーフデザイナーの Andreas Hofmann はクラシック音楽、特にオペラの心底からの愛好家ですので、大編成オーケストラのフルインパクトを損ないたくはありません。彼の試聴室での比較対象として、著名なバーデン・バーデンの劇場フェストシュピールハウスや、ブレゲンツ音楽祭で知られる湖上舞台が近隣にあることが役だっています。



(写真: 左右パネルはシルバーヘアライン仕上げ、中央にスレートブラックストーンを施した仕様)

Jubilee Mono SE

Jubilee ラインを完成させるためには、OCTAVE が元来の真空管技術の境界を取り壊し、限界と考えられていた次元を超えなければならぬことを示していました。

OCTAVE は長年にわたり大なる挑戦を続けています。典型的なプッシュプル原理の最初のモノアンプである MRE120 を完全に見直し、さらなるアプローチを求めました。その当時、OCTAVE はすでに理論的には開発され尽くしていると思われていた既知の技術の限界を初めて超えることが出来たのです。そしてこのアプローチは更なる将来性を確約するものでした。その経験を活かし製品化を実現、その後、五極管の回路は一貫して最適化されています。この研究はパワー/出力帯域において新たに高水準を確立した記念碑とも言うべきモノパワーアンプ<Jubilee Mono>の誕生した 2003 年まで続きました。そして完成した Jubilee Preamp との完璧なコンビネーションは、夢のシステムとして存続しています。

年月を重ねるにつれて、新しい技術の獲得、更なる開発、新しいデバイス、そして数千という台数を組み立ててきた経験から新たな視点が得られました。市場には興味深い新しいスピーカーも参入しています。そうした機器との組み合わせの結果も素晴らしいものであり、OCTAVE 回路の実力は如何なく発揮されています。その後も、Jubilee Mono はあらゆる組合せで一様に優れた能力を証明しています。

生演奏や、世界中の著名なスピーカーモデル、これらの試聴を行い、更なる微調整と機能性を追加しました。そこで得られた幅広い実体験が、Jubilee Mono の徹底的な改訂を実現可能にしました。主な焦点は常に安定感と高揚感、そして本物のステージ感でした。鍵となるのはもちろんダイナミクス性と帯域幅です。それには、新 Jubilee Mono SE は正真正銘、際限のない圧倒的な音楽再生能力が実証されなければなりません。

新しい SE モデルでは Jubilee Mono が獲得している 250W 以上の出力を目指しました。しかし、同じ設計でさらに特別な「SE」として精巧な構想が具体化するまで更に 12 ヶ月を要しました。その結果、Jubilee Mono SE は多くの設定値の基準を飛躍的に向上させたのです。OCTAVE の特性はそのままに、明確なリズムで片チャンネル 440W を安定して取り出せるようになっています。

安全保護システム

技術的な必要条件は計り知れず、Jubilee Mono SE を実現させるために、非常に複雑な出力トランスが考案されました。シングルトランス用の巻き線行程だけで丸 1 日かかるものです。電源供給は従来の限界を超えています。本体をオン・オフする際に聞こえるクリック音はプロ仕様の保護リレーによるものです。もちろん、エレガントな Jubilee Mono SE アンプの完璧な安定性実現のため OCTAVE オリジナルの安全機能が採用されています。電力管理システムは全ての操作電圧の穏やかな起動を確約します。全てのコンポーネントの寿命を引き延ばす一方で、家庭フェーズが直ちに反応する突入電流を防ぎます。革新的なエコモード回路も装備され、10 分以上入力信号が検知されない場合にはアンプは自動的にスタンバイモードに切り替わります。高電圧はスイッチオフされ、入力段のみが電圧下にあるので、オーディオファイル向けと言えるでしょう。

バイアス設定

シンプルなバイアス設定で、アンプ 1 台あたり合計 8 本もの真空管を最適に動作するよう調整できます。設定は 8 つの 10 回転ポテンシオメータ(真空管 1 本につき 1 つ)で行われ、測定同様に精密に行われます。これらは全てシャーシの上段にディスプレイ表示されます。エレガントなロータリースイッチで真空管を 1 本 1 本選択し、個別に本体の背面にあるポテンシオメータで正しい数値に調整します。不具合真空管の交換時だけでなく、別タイプの真空管をお試しになりたい際に全真空管の交換を容易にします。この機能は OCTAVE のどのプリメインアンプ、パワーアンプ、または巨大なモノアンプでもお楽しみいただける長所です。出力管の違い(KT88、6550、KT120 など...)による音質の変化をふまえて、サウンドシステムのデリケートなセットアップに貢献させることができます。



Jubilee Mono SE	Mono Power Amplifier
出力管	KT120 × 8 /台
ドライバ管	ECC82 × 3 /台
出力	400W (4Ω)、>450Wピーク出力 (4Ω) *8Ω時の出力は4Ω時より20%減
出力段構成	4 平行プッシュプル、五極管方式
再生周波数帯域	10Hz-80kHz / ±0.5dB
入力インピーダンス	RCA: 90kΩ XLR: 15kΩ
入力感度 (フル変調)	RCA: 2V XLR: 2V
全高調波歪	0.1%以下 /10W 4Ω時
S/N比	103dB 以上
最小負荷インピーダンス	2Ω
ゲイン	+28dB
消費電力	最小:420W (無出力信号時) 低出力時: 240W (出力プリセレクトが Low に設定時) 最大:800W (フルパワー時)
入力端子	RCA × 1, XLR × 1 (Neutrik) /台
出力端子	バイディングポスト × 2 組 /台
アイドリング電流	通常動作電流 32mA 出力管毎 表示値 1,000 は 32mV アイドリング電流に匹敵 500と1,300の間の全ての表示値は許容調整
真空管毎に調整可能なグリッド電圧調整範囲	-30~80V
突入電流を防ぐためのソフトスタート機能	最大 800W / 時間遅延 3 フェーズ、 6A を超えた電流の時間は 1 秒未満
電源 ON からの起動時間	50 秒
AC 電源フューズ定格	メインフューズ: 8A (スローブロータイプ, IEC タイプ), ヒータートランス: 2.5A, 高電圧トランス: 6A
ヒーターシステム	出力管 6.3V AC 点火, ドライバー真空管 12.6V DC 点火 (2x)
ドライブ段への供給電圧	310V DC
真空管保護機能	出力管: トリガー電流 170mA ドライバー回路: 340V DC 過電圧検知
NFB値	10dB
オープンループゲイン	38dB
残留ノイズ	200μV 以下 / 200Hz-20kHz 内では 100μV 以下
サイズ	H707 × W280 × D484 mm /台
重量	66kg/台
価格	¥11,000,000/ペア (税別)



独自の外観、上品なヘアラインパネルと最高級品質の素材は美観だけに留まりません。フロントの石材はさらなる機能と目的を果たしています。これらは効果的にハウジングをダンピングし、機械的共振を防ぐのです。中央の見事な石材と粉体塗装されたアルミニウムの組合せは最高の構成です。

長期テストで立証された特殊な脚が完璧な安全性で安定してシャーシを支持します。特別なスピーカーターミナルと金メッキコネクタは妥協の無い物造りの姿勢のひとつの表れで、接続について万全の備えを保証しています。

多くの異なるシステムで検証を重ねましたが、その結果は素晴らしいものでした。パワーは十全にコントロールされつつ自然にスピーカーに届けられるため、他のアンプでは体験できない質感が伝わってきます。これまで聴いたことのない音の世界が誕生しています。アンプのダイナミック性能は息を呑むようで、あらゆるスピーカーが生まれ変わったように音楽を奏ではじめます。同時に、2つのパワー筐体はそれぞれが重要な中音域を表現力豊かに再現します。

人間の耳はきわめて繊細で、心を乱す不自然な音色を敏感に感じ取ります。Jubilee Mono SE の自然さは見事に新しいスタンダードとなるものです。繊細な高音域は全体像にシームレスに融合し、万華鏡のように多面的なディテールを明らかにします。

Jubilee Mono SE で音楽を体験する旅は、今まで以上に胸を躍らせながらくつろいだ気分を与えてくれます。クラシックでありながらモダンでもあり信頼のもてる、革新的な音響体験はいつまでも心に残ることでしょう。



ジュビリーは受注生産となりますので、仕上げについては別途ご相談ください。また、生産期間にお時間をいただく場合がございます。納期等、詳細はお問い合わせください。(写真：左右パネルはブラックヘアライン仕上げ、中央に特注石材を施した仕様)

※ お選びになる仕上げによってはサイズ、重量が異なる場合がございます。予めご了承下さい。

*インピーダンスタップについて

一般的な真空管パワーアンプには、接続するスピーカーのインピーダンスに合わせるよう、2~3種類の専用出力タップが装備されているものがあります。一方、OCTAVEのプリメインアンプ、パワーアンプにはスピーカーのインピーダンスに応じて接続する出力タップは無く、全て4Ω表示に統一されています。それは音質を重視したからにほかなりません。例えば、4Ω、6Ω、8Ωの3種類のタップが出力トランスに装備してある場合、その中の1つを選択してスピーカーケーブルを接続します。つまり、出力トランスには実際には使用しない余分の2次巻線が2組分存在していることになります。この状況はアンプの出力の歪みの増加に繋がる上に、低効率を招き、ついには音楽再生の際の音質劣化の要因になってしまいます。

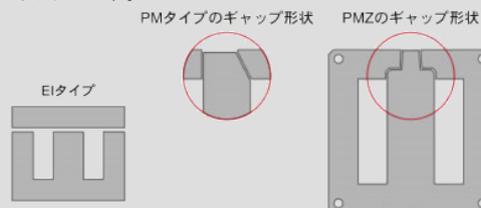
OCTAVEの出力トランスは、個別の出力タップを使用せずに2Ωの低負荷から8Ωまで効率的に対応出来るよう設計されています。これは、損失が極めて少ない特注のPMZコア、およびアイソレーションペーパーを使用することに始まり、前身であるホフマン・トランスフォーマーズの時代から培ってきた巻線の技術、またこれらを統合するべく研究、開発を長年行ってきた現社長アンドレアス・ホフマンによって生み出された独自のトランスのみがなせる業なのです。余計なタップを介させず、高効率のトランスを使用することは、皆様へ素晴らしい音楽をお届けするためのポリシーの現れなのです。

*さらに詳しい内容はホームページにてご確認ください。

<http://www.fuhlen.jp/octave/test/technology.html>

*PMZ コア

PMZの主な利点は浮遊磁場の軽減であり、コア内における磁界を最適化します。この特徴によって、トランスの変換効率自体を約5~10%向上させることができます。標準のEIタイプとの違いはギャップの形状です。EIタイプは2枚のピースからコアが成形されているため3つのギャップがあり、うち2つは磁気系の中心部分の外側にあります。それに対してPMZタイプは1枚のスチールで成形されているためギャップを最小限に抑え、コアにおける損失を軽減することで、磁気密度をさらに10%向上させています。出力トランスにPMZコアを使用することで、低周波数帯域においてとりわけ優れた特性を発揮し、歪みの減少と、出力の増加を実現します。真空管の出力信号はトランスにあまり左右されないとは言え、変換効率は重要なファクターです。



OCTAVE

総輸入代理店:フューレンコーディネート
FREE:0120-004-884
www.fuhlen.jp/octave